

## 麒麟ホールディングス株式会社 グリーンボンド・フレームワーク

### 1. はじめに

麒麟ホールディングス株式会社（以下、「当社」）は、以下の通り、グリーンボンド・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定しました。本フレームワークは、「グリーンボンド原則 2018（ICMA）」及び環境省グリーンボンドガイドライン 2020 年版との適合性に対するオピニオンをサステナリティクスより取得しております。当社は本フレームワークに基づき、グリーンボンドを発行いたします。

#### 1.1 発行体概要

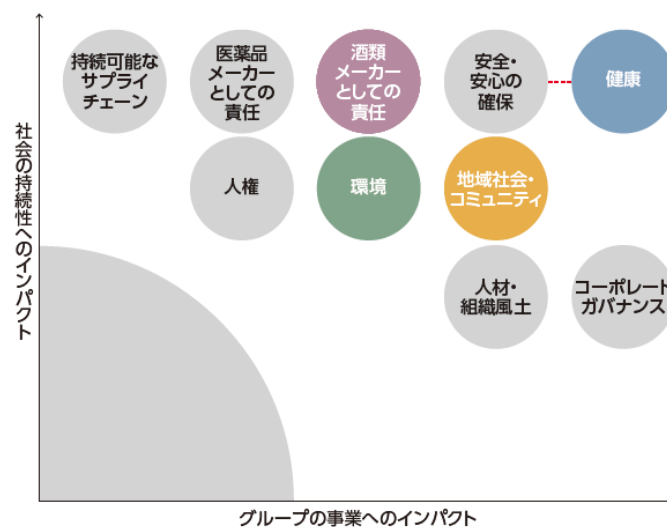
当社は麒麟ビール株式会社、麒麟ビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、Myanmar Brewery Ltd、協和麒麟株式会社、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。東京に本社を置き、日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、「食領域」（酒類・飲料事業）と「医領域」（医薬事業）に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」（ヘルスサイエンス事業）を展開しています。

#### 1.2 グループ経営理念

キリングループは、自然と人を見つめものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します

#### 1.3 グループ・マテリアリティ・マトリックス

キリングループでは、社会とともに将来にわたり持続・発展していく上での重要なテーマを「持続的成長のための経営諸課題（グループ・マテリアリティ・マトリックス：GMM）」に整理しています。グループを取り巻く社会課題を踏まえ、「酒類メーカーとしての責任」を果たすことを前提に、「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」の4つ「CSV 重点課題」に選定しています。



## 1.4 CSV パーパス

社会と価値を協創し持続的に成長していくために、長期経営構想「KV2027」の指針として、4つのCSV重点課題ごとに「CSV パーパス」を策定しています。

「2050年までに、資源循環100%社会の実現を目指す。」としていた環境パートについては、2020年2月の環境ビジョンの改訂に伴い「ポジティブインパクトで持続可能な地球環境を次世代につなぐ。」へと変更。より高いハードルを設定し、その達成に向けた取り組みを開始しています。



## 1.5 CSV コミットメント

CSV重点課題に取り組んでいくために、CSVパーパスの中期のアクションプランとして、「19のコミットメント」を設定しています。各コミットメントは、中期経営計画の非財務目標としても設定しています。

事業戦略とCSVコミットメントを連動させることで、グループ全体で目的を共有して社会的価値を創出するとともに、競争力の強化と事業の成長という経済的価値につなげて、CSV経営を深化させています。

2019年度は、各成果指標を踏まえた施策を着実に実行し、目標達成に向けて順調に進捗しました。

|              | 主なCSVコミットメント        | アプローチ・成果指標                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 酒類メーカーとしての責任 | 適正飲酒啓発と次世代へのお酒の文化継承 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 適正飲酒啓発プログラムの実施</li> <li>② 適正な飲酒習慣をサポートする<br/>アルコール量の表示 <span>KB</span> <span>ME</span> <span>LN</span> <span>MBL</span></li> </ul>                                                                                                                    |
| 健康           | 健康・未病領域におけるセルフケア支援  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 低糖・カロリーオフ無糖商品・健康機能エビデンス関連商品の拡充 <span>KBC</span> <span>KIW</span></li> <li>② 健康機能性素材(プラズマ乳酸菌)の新たな価値の継続的な創造 <span>KH</span></li> </ul>                                                                                                                  |
|              | 治療領域の進化             | バイオ医薬品の提供を通して培った強みである研究開発力と製造技術力を核として創薬基盤を強化し、自社創薬の新薬を世界へ提供 <span>KKC</span>                                                                                                                                                                                                                   |
| 地域社会・コミュニティ  | コミュニティ活性化への貢献       | キリングループ商品がある食卓・飲食店・レクリエーション・季節ごとの行事・スポーツ／音楽イベントなど、人と人とがつながる機会の拡大、創出<br><span>KB</span> <span>ME</span> <span>KBC</span> <span>MBL</span>                                                                                                                                                       |
|              | 原料生産の持続可能性強化        | 持続的な調達と生産地域の活性化に向け、長期的な視点に立った原材料の価値化と生産地または農家への支援<br><ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本産ホップ調達量 <span>KB</span></li> <li>② 日本ワイン用ブドウ生産量 <span>ME</span></li> <li>③ 醸造米契約栽培比率 <span>MBL</span></li> <li>④ レインフォレスト・アライアンス認証取得、支援<br/>小規模農園数 <span>KH</span> <span>KBC</span></li> </ul> |
| 環境           | 気候変動影響への対応          | 再生可能エネルギー導入と省エネルギー推進 <span>グループ全体</span>                                                                                                                                                                                                                                                       |
|              | 容器包装の取り組み           | 容器包装の3R・資源循環推進 <span>KB</span> <span>KBC</span> <span>ME</span> <span>LN</span>                                                                                                                                                                                                                |

KB キリンビール    KBC キリンビバレッジ    ME メルシャン    KIW 小岩井乳業  
LN ライオン    MBL ミャンマー・ブルワリー    KKC 協和キリン    KH キリンホールディングス

## 1.6 キリングループ環境方針、環境保全活動の推進体制

### 基本方針

「食と健康」を提供するキリングループは、すべての事業の低炭素化に努め、環境保全の取り組みを実践するとともに、お客様への環境価値提案を通して、自然と共生した豊かな社会の実現に貢献します。

### 環境保全活動の推進体制

キリングループでは、各事業会社・事業所で ISO14001 に準拠した環境マネジメントシステムを運用し、バリューチェーン全体に環境保全活動を広げて積極的に推進するとともに、環境リスクの低減につなげています。

### キリングループグローバル環境マネジメントの原則（KGEMP）



環境方針やキリングループ長期環境ビジョンを受け、経営計画の中で環境目標の進捗を管理し、環境リスク・順法管理、教育、内部監査などを行うことで、ガバナンスを強化しています。環境リスクはリスクマネジメントで一元管理されており、万が一環境リスクが顕在化した場合には、リスク担当役員の指示のもと、直ちに関連部門が連携して情報の共有、対策の実施、再発防止及び他部門でも水平展開を行い、確認と対応を行います。

2015年4月には、グループ本社と日本統括会社が一体となった新しい経営組織体制への変更に合わせ、従来、キリンホールディングスにあったグループ全体の環境管理を統括する機能（グループ環境担当）をキリン社 CSV 推進部（現キリンホールディングス CSV 戦略部）に統合しました。戦略策定・意思決定のスピードの向上を図り、価値創造につなげていきます。これに伴い、グループ環境総括責任者をキリンホールディングス常務執行役員としています。

## 1.7 キリングループ環境ビジョン2050

キリングループは「ポジティブインパクトで、豊かな地球を」というビジョンのもと、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。



## 実現するための取り組み

|                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <b>生物資源</b><br>持続可能な生物資源を利用している社会 | <b>持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行います</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●FSC、RSPO、レインフォレスト・アライアンスなどの認証スキームに合致した原料農産物を調達します</li> <li>●地球温暖化に適応した原料農産物を育種し、原料生産地に展開します</li> <li>●製品廃棄の削減や再資源化を推進し、生産活動によって発生するフードウェイストをゼロにします</li> </ul> <b>農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レインフォレスト・アライアンスなど持続可能な認証の取得支援を拡大し、生産地域における環境課題などを解決します</li> <li>●持続可能な農業による豊かな生物多様性への貢献を調査・研究し、原料生産地に展開します</li> </ul> |
|  <b>水資源</b><br>持続可能な水資源を利用している社会   | <b>原料として使用する水を持続可能な状態にします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループ拠点における水使用量の削減を継続します</li> <li>●日本国内の水資源の森活動をさらに推進します</li> </ul> <b>事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライチェーンの強化・効率化により水災害時のリスクを最小化します</li> <li>●原料生産地で水源保全活動および水を大切にする教育を実施し、バリューチェーンにおける水の課題を解決します</li> </ul>                                                                                                         |
|  <b>容器包装</b><br>容器包装を持続可能に循環している社会 | <b>持続可能な容器包装を開発し普及します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル材やバイオマスなどを使用した、持続可能な容器包装にします</li> <li>●新容器・サービスの開発を目指します</li> </ul> <b>容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本国内のリサイクルシステム構築を牽引します</li> <li>●事業展開地域の資源回収やリサイクルインフラ整備に貢献します</li> </ul>                                                                                                                                       |
|  <b>気候変動</b><br>気候変動を克服している社会     | <b>バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにします</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●早期にRE100を達成するとともに、自社の使用エネルギーを100%再生可能エネルギー起源にします</li> <li>●バリューチェーン全体の炭素排出量をネットゼロにします</li> </ul> <b>脱炭素社会構築に向けリードしていきます</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様をはじめとしたステークホルダーと共に、脱炭素社会に寄与するビジネスモデルを構築します</li> <li>●気候変動を緩和する研究を助成し、責任ある再生可能エネルギーを社会に広げます</li> </ul>                                                                         |

## 1.8 CSVコミットメントの主な目標

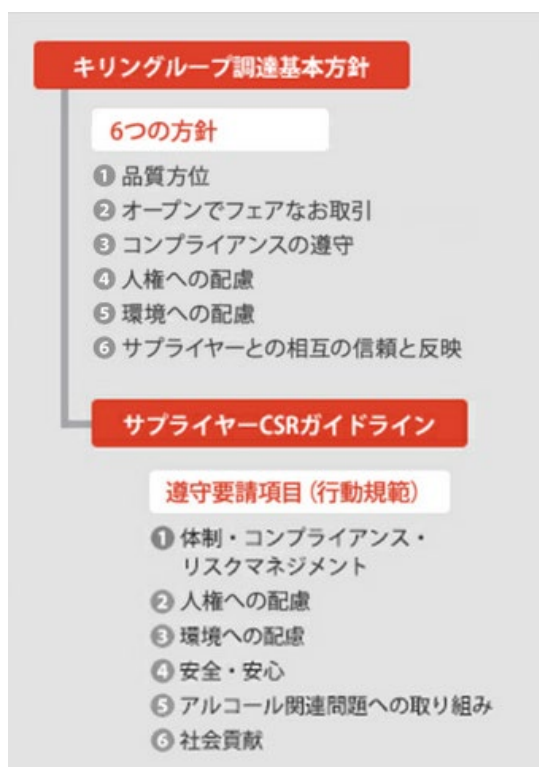


KG キリンググループ KH キリンホールディングス KB キリンビール KBC キリンビバレッジ ME メルシャン KXC 協和キリン+協和発酵/バイオ LN ライオン MBL ミヤンマー・ブルワリー  
 KD キリンディステラリー

## 1.9 キリンググループ持続可能な調達ポリシー

キリンググループは高い水準の社会的責任を果たしつつ、事業に最適かつ必要な原材料やサ

ービスを調達します。キリングroupは事業全体に亘って社会的責任を果たすべく、国連グローバル・コンパクトの署名者として、その影響の及ぶ範囲内で国連グローバル・コンパクトの定める「人権」、「労働」、「環境」、「腐敗防止」の分野における一連の本質的価値観を支持し、実行に移していきます。キリングgroupはサプライヤーや他のステークホルダーの意見に耳を傾け、このポリシーへの理解を図ると共に協働してポリシー実現へ取り組んでいきます。キリングgroupはこのポリシーを実行することで世界的視野で持続可能性を高めると共に事業競争力を高め、企業価値を向上させ、社会への貢献を図ってまいります。



#### 1.10 プラスチックポリシー

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）は、「環境」に関する大きな社会課題の1つである「プラスチック廃棄物課題」の解決に向けた取り組み方針「キリングgroup プラスチックポリシー」を2019年2月に策定しました。キリングgroupでは、プラスチックが抱える本質的な課題を把握し、グループ各社が提供するプラスチック容器包装等に対する適切な取り組みを迅速に進めることで、プラスチックの持続可能な使用及び資源の循環を推進していきます。

##### 1. PETボトルの資源循環を推進します。

キリングgroupが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用PET樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングgroupは、PETボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指します。

また、PETボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済PETボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングgroupでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済PETボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進め

ていきます。

**2. ワンウェイプラスチックの削減及び他の素材への代替に努めます。**

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリンググループは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

**3. PET ボトル原料の持続性向上を目指します。**

キリンググループでは、これまでも環境負荷軽減の観点から PET ボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PET ボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来の PET ボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。また、キリンビバレッジでは、一般社団法人 全国清涼飲料連合会が昨年発表した「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言 2018」に賛同し、「2030 年までに PET ボトルの 100%有効利用」の実現に向けて、業界を挙げて取り組んでいきます。

#### 1.11 環境関連の外部イニシアティブへの賛同・参加

- ・ TCFD
- ・ A Business Ambition for 1.5°C
- ・ Uniting Business and Governments to Recover Better

#### 1.12 グリーンボンドの発行意義

当社はグリーンボンド発行を上記の環境課題の解決及びリスクと機会への対応を図りつつ、当社の CSV を推進するための資金調達として位置づけており、「お客様」、「株主・投資家」、「従業員」、「コミュニティ」、「ビジネスパートナー」、「地球環境」のステークホルダーの皆様に対して、改めて当社の取り組みを発信する契機となるものと考えております。

## 2. グリーンボンド・フレームワーク

### 2.1 調達資金の使途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす適格プロジェクトに関連する新規支出及びリファイナンスへ充当します。なお、リファイナンスの場合は、グリーンボンド発行から5年以内に実施した支出に限ります。

| 大項目       | 事業・プロジェクト                        | GBP<br>プロジェクトカテゴリ                                    | SDGs との整合性                                |
|-----------|----------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 製品製造・販売   | ・工場におけるヒートポンプシステムの導入             | <b>GBP：</b><br>・省エネルギー                               | 9.産業と技術革新の基盤をつくろう                         |
|           | ・再生 PET 樹脂の調達・設備投資               | <b>GBP：</b><br>・汚染防止及び抑制<br>・環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス | 12.つくる責任つかう責任                             |
| 再生可能エネルギー | ・工場における太陽光設備の導入<br>・再生可能エネルギーの調達 | <b>GBP：</b><br>・再生可能エネルギー                            | 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに<br>9.産業と技術革新の基盤をつくろう |

### 2.2 除外クライテリア

グリーンボンドで調達された資金は下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- ・所在国の法令を遵守していない不正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- ・人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

### 2.3 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

事業の実施にあたって、当社はプロジェクトの実行及び事業期間の全てにおいて環境関連法令及び当該地域との協定を順守するほか、社会倫理に適合した誠実な行動を取るために、キリンググループコンプライアンスガイドラインに従います。

### 2.4 プロジェクトの評価と選定のプロセス

当社の経理部及び CSV 戦略部が 2.1 にて定めた適格事業を選定し、選定された適格事業の最終決定は財務戦略担当執行役員が行います。事業の適格性については、キリンググループ環境ビジョン 2050 の達成への貢献性を総合的に評価しています。

### 2.5 調達資金の管理

当社ではサステナビリティボンドの発行による手取り金について、全額が償還されるまで、半期毎に当社の経理部が内部管理システムを用いて調達資金の充当状況を管理します。調達資金は発行から1年以内に適格プロジェクトに充当予定であり、グリーンボンドの発行代わり金の全額が充当されるまでの間は、現金又は現金同等物等にて管理されます。

### 2.6 発行体によるレポーティング

#### 1. 資金充当状況レポーティング

当社は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金が全額充当されるまで、プロジ

エクトについて機密性を考慮しつつ、調達資金の状況（プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額）を年次でウェブサイト上に公表します。

また、長期にわたり維持が必要である資産について、複数回のグリーンボンド発行を通じてリファイナンスを行う場合には、グリーンボンド発行時点における当該資産の経過年数、残存耐用年数及びリファイナンス額を開示します。

なお、調達資金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

## 2. インパクト・レポーティング

当社は、グリーンボンドの償還までの間、以下の指標を実務上可能な範囲で年次で当社ウェブサイトにてレポーティングします。

| 大項目           | 事業・プロジェクト                        | レポーティング事項        |
|---------------|----------------------------------|------------------|
| 製品<br>製造・販売   | ・工場におけるヒートポンプシステム導入              | ・ GHG 削減量(t)     |
|               | ・再生 PET 樹脂の調達・設備投資               | ・ リサイクル PET 樹脂比率 |
| 再生可能<br>エネルギー | ・工場における太陽光設備の導入<br>・再生可能エネルギーの調達 | ・ GHG 削減量(t)     |

## 2.7 外部レビュー

### 2.7-1 セカンド・パーティー・オピニオン

当社は、グリーンボンド発行前に、サステナリティクスより本グリーンボンド・フレームワークについて、関連する規準である「グリーンボンド原則 2018 (ICMA)」及び環境省グリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性を確認するための外部評価を取得しました。

### 2.7-2 アニュアル・レビュー

当社はグリーンボンド発行日から 1 年を経過する前に、適格プロジェクトのレポーティングが当社のグリーンボンド・フレームワークに適合しているかを評価するためのレビューを独立した外部機関であるサステナリティクスから取得致します。このレビューは、当該グリーンボンドが全額充当されるまで毎年行う予定です。